

## 【成果指標を検討する視点】

(1) 論理的整合性

現状を踏まえ、課題の解決に資する状況を表しているか？

(2) 指標の代表性

施策に取り組むことによる成果を表しているか？

(3) 指標のレベル感

アウトプット指標（＝事業や取組の直接的な効果、主語が事業実施者）ではなく、アウトカム指標（＝事業や取組により得られる成果、主語が事業実施者以外の市民や団体等）が設定されているか？

(4) 目標値の適切さ

容易に達成可能な目標値になっていないか？

目標値の算出方法は説明できるものになっているか？

※指標とした数値は、「増加」と「減少」のどちらが望ましい傾向なのかを説明できるものにする。

(5) 指標の分かりにくさ

行政の努力がわかりにくい指標になっていないか？（努力しても目標値があまり上がらない、100%になるのが当然、など）

第11回朝霞市総合計画審議会（R070127）における成果指標に係る意見

1 成果指標を検討する視点

小柱が計画どおりに実現できたら、何が達成できるのか。何を達成したいのか。というのが中柱の成果指標となる。

2 審議会が出された成果指標の例

(1)【第5章】

大柱：6 産業活性化

中柱：(2) 中小企業の経営基盤の強化

小柱：①経営への支援、②人材育成と組織強化の支援、  
③情報収集と相談機能の充実

ア.

【成果指標】市内中小企業の売上の増加率

【説明】市内の中小企業の売り上げを何年後に2倍にする。

→その結果企業の利益がこれだけ増えて、特に若い従業員の給与が今の倍になる。

→そうすると未婚率が下がって、最終的には出生率の向上に寄与する。

イ.

【成果指標】雇用の増加率

【説明】今ある雇いを何倍にまでふやす。

→(市の財政を考えたら)企業からの税収、法人税だったり、固定資産税だったり、消費税だったりをもっと増やして他の税収減分を補う。

→今の何倍にまで増やして他の税収減分を補う。

(2)【第6章】

大柱：3 行財政

中柱：(4) デジタル化の推進

小柱：①デジタル技術の適正かつ効果的な活用、②市民に寄り添うデジタル化

ア.

【成果指標】市民が～を取得する時間

【説明】市民がどれだけ便利になったか。所要時間減など。

イ.

【成果指標】職員が～を1件処理する時間

【説明】職員がどれだけ業務効率化したか、1件あたりの処理時間など。

・効率化だけでは限界があるので、組織内でもっている情報をもっと有効活用することで、今まで提供できなかったような市民ひとりひとりに合わせた行政サービスの提供を今後は考えていく必要がある。

※実現するにあたっては、何でも行政内部がやるのではなくて、民間サービスで使えるものはどんどん使っていく必要がある。計画に記載するかは別として、考え方としてしておくのがいい。

### 3 成果指標へのその他の意見

#### (1)【第6章】

大柱：2 市民参画・協働

中柱：(2) 情報提供の充実と市民ニーズの把握

広報することによっての目標値が見えない。市民の皆さんが市の事業に参加しやすくなることや、参加促進の目標設定があった方がいいのではないか。

#### (2)【第6章】

大柱：3 行財政

経常収支比率を指標にしてはどうか。

#### (3)【第6章】

大柱：3 行財政

中柱：(6) シティ・プロモーションの展開

何をもってシティ・プロモーションできているのかが見えない。例えばふるさと納税、移住率、高齢人口などをプロモーションとしてのゴールを設定した方がいい。